

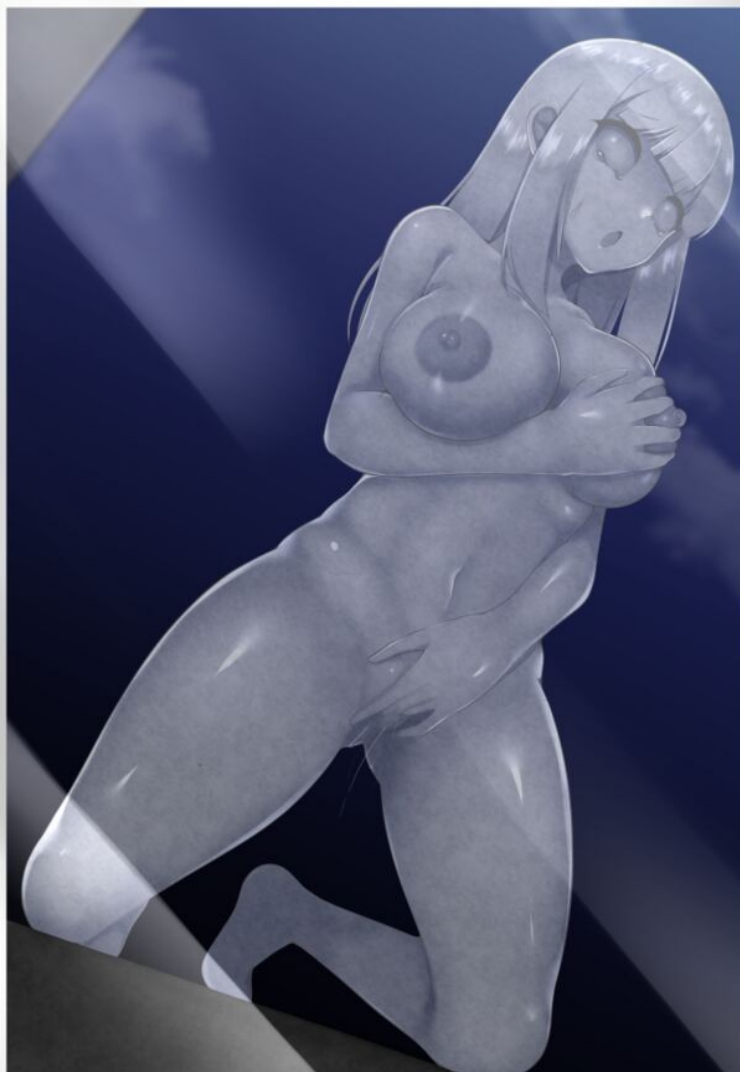
調 査 書

氏名:宮守 陽菜
所属:■■■大学
事件発覚日時:20XX/02/07
身辺状況:■■■県在住。当時の交友関係に問題などは見られなかった。一方で後の聞き取りから、被害者は大学で開催される所謂「ミスコン」などに参加しており、優れた容姿の女性として一定の知名度を有していたことが判明している。彼女を知る者によって、いずれかの犯罪組織に『加工依頼』が行われた可能性が考えられる。
事件当時の状況(※写真2を参照):被害者は石化した状態で発見。衣服は全て剥ぎ取られており、現在も発見されていない。自慰を行う姿で石化していることから、催淫性の薬液を投与された後、石化加工が行われたものと推測される。犯行は計画的に行われたものとして捜査が進められている。
保管状況:第一種被害者保管倉庫にて保管。



調 査 書

氏名:宮守 陽菜
所属:■■■■大学
事件発覚日時:20XX/02/07
身辺状況:■■■■県在住。当時の交友関係に問題などは見られなかった。一方で後の聞き取りから、被害者は大学で開催される所謂「ミスコン」などに参加しており、優れた容姿の女性として一定の知名度を有していたことが判明している。彼女を知る者によって、いずれかの犯罪組織に『加工依頼』が行われた可能性が考えられる。
事件当時の状況(※写真2を参照):被害者は石化した状態で発見。衣服は全て剥ぎ取られており、現在も発見されていない。自慰を行う姿で石化していることから、催淫性の薬液を投与された後、石化加工が行われたものと推測される。犯行は計画的に行われたものとして捜査が進められている。
保管状況:第一種被害者保管倉庫にて保管。



調 査 書

氏名: 諏訪部 あかり
所属: ■■■県立■■■高等学園
事件発覚日時: 20XX/04/23
身辺状況: 被害者は事件時に捜索願が出されており 数日前から行方不明になっていたことが判明して いる。失踪直前には「友人に誘われたアルバイトに 行く」と両親に伝えていた。『アルバイト』が犯罪組 織の関与するものであり、被害者はそれを知らずに 被害に遭ったものと推測される。なお、『友人』に該 当すると思われる人物も、同様に失踪している。
事件当時の状況(※写真2を参照): 被害者は男性用 性玩具(通称:オナホール)に加工され、商品として 販売されていた。当該店舗を巡回中の警察官が、 偶然被害者の両親から捜索願を受理した当人で あったことから事件が発覚。店主は事件への関与 を否定している。
保管状況: 第三種被害者保管倉庫にて保管。



調 査 書

氏名: 諏訪部 あかり

所属: 〇〇県立〇〇高等学園

事件発覚日時: 20XX/04/23

身辺状況: 被害者は事件時に捜索願が出されており数日前から行方不明になっていたことが判明している。失踪直前には「友人に誘われたアルバイトに行く」と両親に伝えていた。『アルバイト』が犯罪組織の関与するものであり、被害者はそれを知らずに被害に遭ったものと推測される。なお、『友人』に該当すると思われる人物も、同様に失踪している。

事件当時の状況(※写真2を参照): 被害者は男性用性玩具(通称:オナホール)に加工され、商品として販売されていた。当該店舗を巡回中の警察官が、偶然被害者の両親から捜索願を受理した当人であったことから事件が発覚。店主は事件への関与を否定している。

保管状況: 第三種被害者保管倉庫にて保管。



調 査 書

氏名: 武蔵川 凜
所属: 私立■■■■高等学園(当時)
事件発覚日時: 20XX/05/02
身辺状況: 被害者は数年前から行方不明となっており、捜索願が出されていた。失踪当時、被害者は在籍していた学園で生徒会長を務めており、一部の素行の悪い生徒とトラブルになる姿が度々目撃されていた。該当の元生徒達に任意での聴取を求めているが、現状全て拒否されている。
事件当時の状況(※写真2を参照): 被害者は男性用小便器に改造され、■■■■学園の旧校舎に設置されていた。校舎の老朽化に伴う解体に際し、本事件が発覚した。旧校舎への立入は通常禁止されており、このことが事件の発覚が遅れた主因と考えられる。
保管状況: 第二種被害者保管倉庫にて保管予定。
ただし、老朽化や配管の関係から、移送中に被害者の身体を損傷させる危険があるため、現在協議中。



調 査 書

氏名: 武蔵川 凜
所属: 私立■■■■高等学園(当時)
事件発覚日時: 20XX/05/02
身辺状況: 被害者は数年前から行方不明となっており、捜索願が出されていた。失踪当時、被害者は在籍していた学園で生徒会長を務めており、一部の素行の悪い生徒とトラブルになる姿が度々目撃されていた。該当の元生徒達に任意での聴取を求めているが、現状全て拒否されている。
事件当時の状況(※写真2を参照): 被害者は男性用小便器に改造され、■■■■学園の旧校舎に設置されていた。校舎の老朽化に伴う解体に際し、本事件が発覚した。旧校舎への立入は通常禁止されており、このことが事件の発覚が遅れた主因と考えられる。
保管状況: 第二種被害者保管倉庫にて保管予定。
ただし、老朽化や配管の関係から、移送中に被害者の身体を損傷させる危険があるため、現在協議中。



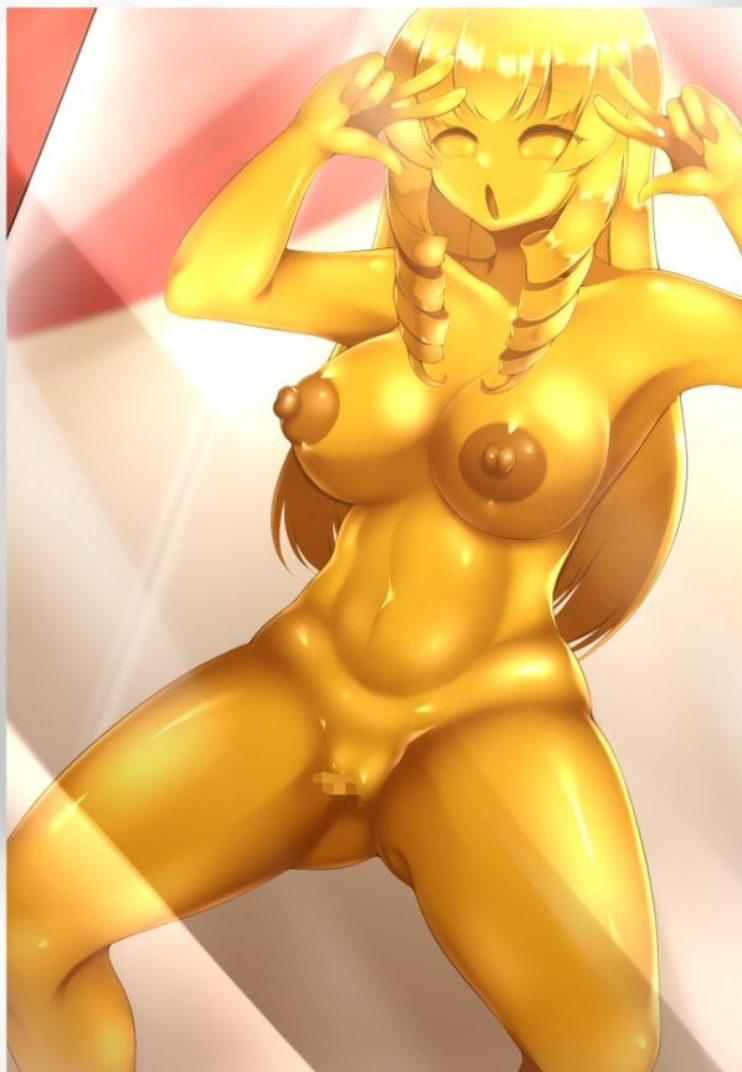
調 査 書

氏名：九条院 華憐
所属：国立■■■■高等女学園(当時)
事件発覚日時：20XX/06/13
身辺状況：被害者は数年前より学園に登校しておらず、家庭から学園には病気の療養のためと説明されていた。後述の事件の際に被害者が『贈与』された事実を、家族ぐるみで隠蔽していたものと思われる。
事件当時の状況(※写真2を参照)：被害者は黄金製の裸婦像として、■■■氏の邸宅に設置されていた。
この際、被害者の身体には材質変化措置の他に、肉体改造(乳頭及び陰核の肥大化)が施されていた。
九条院家と■■■氏はビジネス上の交流があり、その一環で、九条院家が■■■氏に便宜を図るため、被害者を黄金像として加工し贈与したものと思われる。
事件は、■■■氏が別件で家宅捜索を受けた際に、被害者が押収品として検査を受けたことで発覚した。
保管状況：第一種被害者保管倉庫にて保管。



調 査 書

氏名：九条院 華憐
所属：国立■■■■高等女学園(当時)
事件発覚日時：20XX/06/13
身辺状況：被害者は数年前より学園に登校しておらず、家庭から学園には病気の療養のためと説明されていた。後述の事件の際に被害者が『贈与』された事実を、家族ぐるみで隠蔽していたものと思われる。
事件当時の状況(※写真2を参照)：被害者は黄金製の裸婦像として、■■■氏の邸宅に設置されていた。
この際、被害者の身体には材質変化措置の他に、肉体改造(乳頭及び陰核の肥大化)が施されていた。
九条院家と■■■氏はビジネス上の交流があり、その一環で、九条院家が■■■氏に便宜を図るため、被害者を黄金像として加工し贈与したものと思われる。
事件は、■■■氏が別件で家宅捜索を受けた際に、被害者が押収品として検査を受けたことで発覚した。
保管状況：第一種被害者保管倉庫にて保管。



調 査 書

氏名: 明星 まほ
所属: █████ プロダクション
事件発覚日時: 20XX/07/06
身辺状況: 被害者はアイドルグループ「しゅーてい んぐ★すたぁ」に所属しているアイドルであり、事 件発覚の三週間前に行方不明となっていた。また、 そのさらに約一年前には、ストーカー被害を警察に 相談していた。これには後述する █████ 氏が関与して いたものとみて、現在追加調査を行っている。
事件当時の状況(※写真2を参照): 被害者は原寸の 約1/6の大きさのフィギュアとして加工された状態 で、████ 氏が住むアパートの一室で発見された。事 件は、被害者の失踪についての調査の一環で、捜査 員が █████ 氏のアパートを訪れた際に発覚した。発見 時、被害者の全身は █████ 氏の体液に塗れ、それによ る異臭の沈着や、一部脱色などの破損が見られた。
保管状況: 第一種被害者保管倉庫にて保管。



調 査 書

氏名: 明星 まほ
所属: █████ プロダクション
事件発覚日時: 20XX/07/06
身辺状況: 被害者はアイドルグループ「しゅーてい んぐ★すたあ」に所属しているアイドルであり、事 件発覚の三週間前に行方不明となっていた。また、 そのさらに約一年前には、ストーカー被害を警察に 相談していた。これには後述する █████ 氏が関与して いたものとみて、現在追加調査を行っている。
事件当時の状況(※写真2を参照): 被害者は原寸の 約1/6の大きさのフィギュアとして加工された状態 で、████ 氏が住むアパートの一室で発見された。事 件は、被害者の失踪についての調査の一環で、捜査 員が █████ 氏のアパートを訪れた際に発覚した。発見 時、被害者の全身は █████ 氏の体液に塗れ、それによ る異臭の沈着や、一部脱色などの破損が見られた。
保管状況: 第一種被害者保管倉庫にて保管。



調 査 書

氏名:速水 秋葉
所属: █████ 県立 █████ 高等学園
事件発覚日時: 20XX/08/27
身辺状況: 被害者は部活動の特待生であり、日常的に学園に居残り、夜遅くまで練習を行っていた。そのため、被害者が行方不明となった日も発覚が遅れてしまい、後の捜査時に足取りを追うことが困難となっていた。被害者は多くの大会で活躍していたため、彼女を認知し、好意を抱いていた人物は多いと思われる。故に、容疑者の特定は現状困難である。
事件当時の状況(※写真2を参照): 被害者は男性用性玩具(通称: ダッチワイフ)に加工された状態で、 █████ 市の路地裏に遺棄されているのが発見された。
表皮やオナホール内部に残された体液や指紋などは現場周辺に住む浮浪者のものであり、容疑者の特定に繋がる証拠は発見されていない。
保管状況: 第三種被害者保管倉庫にて保管。



調 査 書

氏名:速水 秋葉
所属: █████ 県立 █████ 高等学園
事件発覚日時:20XX/08/27
身辺状況:被害者は部活動の特待生であり、日常的に学園に居残り、夜遅くまで練習を行っていた。そのため、被害者が行方不明となった日も発覚が遅れてしまい、後の捜査時に足取りを追うことが困難となっていた。被害者は多くの大会で活躍していたため、彼女を認知し、好意を抱いていた人物は多いと思われる。故に、容疑者の特定は現状困難である。
事件当時の状況(※写真2を参照):被害者は男性用性玩具(通称:ダッチワイフ)に加工された状態で、████市路地裏に遺棄されているのが発見された。
表皮やオナホール内部に残された体液や指紋などは現場周辺に住む浮浪者のものであり、容疑者の特定に繋がる証拠は発見されていない。
保管状況:第三種被害者保管倉庫にて保管。



調 査 書

氏名:海鈴 なお
所属:■■■■県立■■■■初等学園
事件発覚日時:20XX/08/31
身辺状況:被害者は事件当日、自宅近くの■■■■町で 開催された夏祭りを訪れていた。この際、両親の仕事の都合から、被害者は一人で夏祭りに参加していた。事件発覚の数時間前に、不審な男性に声をかけられる被害者の姿が目撃されており、それ以降の被害者の足取りは不明である。この男性が事件に深く関与しているものとみて、捜査を進めている。
事件当時の状況(※写真2を参照):被害者は飴に加工された状態で、祭り内の露店で販売されているのを、巡回中の警察官によって発見された。露店の管理者は事件への関与を否定している。被害者の肉体は性器周辺が一部融解し、挿入されている棒に強固に癒着しているため、取り扱いには注意すること。
保管状況:第四種被害者保管倉庫にて保管。



調 査 書

氏名:海鈴 なお
所属:■■■■県立■■■■初等学園
事件発覚日時:20XX/08/31
身辺状況:被害者は事件当日、自宅近くの■■■■町で 開催された夏祭りを訪れていた。この際、両親の仕 事の都合から、被害者は一人で夏祭りに参加して いた。事件発覚の数時間前に、不審な男性に声をか けられる被害者の姿が目撃されており、それ以降 の被害者の足取りは不明である。この男性が事件に 深く関与しているものとみて、捜査を進めている。
事件当時の状況(※写真2を参照):被害者は飴に加 工された状態で、祭り内の露店で販売されているの を、巡回中の警察官によって発見された。露店の管 理者は事件への関与を否定している。被害者の肉体 は性器周辺が一部融解し、挿入されている棒に強固 に癒着しているため、取り扱いには注意すること。
保管状況:第四種被害者保管倉庫にて保管。



調 査 書

氏名：東雲 明魅
所属：私立■■■■高等学園
事件発覚日時：20XX/09/13
身辺状況：被害者は素行不良の生徒として認知されており、聞き取り調査ではいじめ行為を主導していたという証言も得られている。そのため、被害者に対して恨みを抱いていた人物は少なくないと思われる。現在は怨恨の線で調査を進め、犯罪組織に『加工依頼』を行った人物の特定を急いでいる。
事件当時の状況（※写真2を参照）：被害者は石化した状態で、■■■市の公園に設置されているのが発見された。この際、被害者の肉体には、尿道から常に水が流れ出すように特殊な加工が施されていた。
保管状況：第一種被害者保管倉庫にて保管予定。
ただし、特殊加工の影響により、移転に際して破損の危険性があるため、対応が確定するまでの間、■■■市公園にて、現在の状態を維持するものとする。



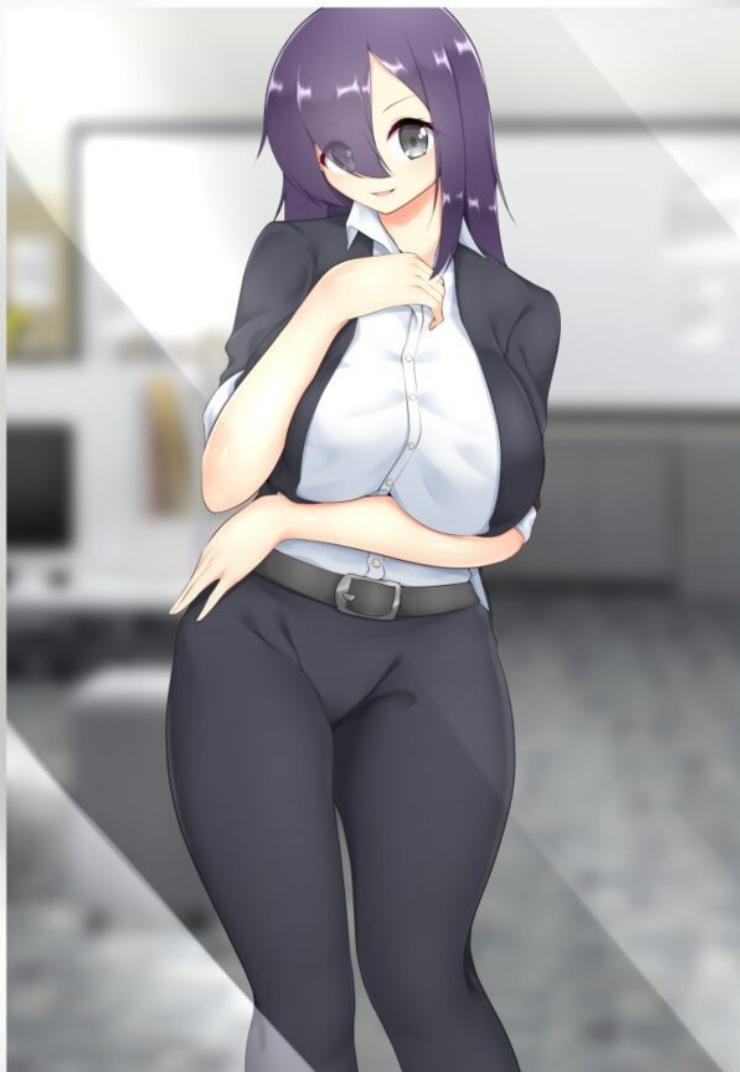
調 査 書

氏名：東雲 明魅
所属：私立■■■■高等学園
事件発覚日時：20XX/09/13
身辺状況：被害者は素行不良の生徒として認知されており、聞き取り調査ではいじめ行為を主導していたという証言も得られている。そのため、被害者に対して恨みを抱いていた人物は少なくないと思われる。現在は怨恨の線で調査を進め、犯罪組織に『加工依頼』を行った人物の特定を急いでいる。
事件当時の状況（※写真2を参照）：被害者は石化した状態で、■■■市の公園に設置されているのが発見された。この際、被害者の肉体には、尿道から常に水が流れ出すように特殊な加工が施されていた。
保管状況：第一種被害者保管倉庫にて保管予定。
ただし、特殊加工の影響により、移転に際して破損の危険性があるため、対応が確定するまでの間、■■■市公園にて、現在の状態を維持するものとする。



調 査 書

氏名:穂村 令子
所属: 人的特殊物品捜査課
事件発覚日時:20XX/10/28
身辺状況:被害者は特殊物品捜査課に所属する刑事であり、国外マフィアが関与していると思われるASFR事件の調査を行っていた。被害者は行方不明となった当日、同僚の刑事に「事件の調査に向かう」という言葉と、被害者が発見された倉庫の名前を言い残しており、当該マフィアが事件に深く関与しているものとみて、捜査を行っている。
事件当時の状況(※写真2を参照):被害者は特殊仕様アンドロイドS型(通称:セクサロイド)に加工された状態で、 ■■■■ 埠頭の倉庫内部で発見された。
発見当時、被害者の外見は大きく改変されており、生体部品のDNAを照合したことで、被害者本人が改造されたものであると断定された。
保管状況:第三種被害者保管倉庫にて保管予定。



調 査 書

氏名:穂村 令子
所属: 人的特殊物品捜査課
事件発覚日時:20XX/10/28
身辺状況:被害者は特殊物品捜査課に所属する刑事であり、国外マフィアが関与していると思われるASFR事件の調査を行っていた。被害者は行方不明となった当日、同僚の刑事に「事件の調査に向かう」という言葉と、被害者が発見された倉庫の名前を言い残しており、当該マフィアが事件に深く関与しているものとみて、捜査を行っている。
事件当時の状況(※写真2を参照):被害者は特殊仕様アンドロイドS型(通称:セクサロイド)に加工された状態で、■■■■埠頭の倉庫内部で発見された。発見当時、被害者の外見は大きく改変されており、生体部品のDNAを照合したことで、被害者本人が改造されたものであると断定された。
保管状況:第三種被害者保管倉庫にて保管予定。



調 査 書

氏名：目谷 千佳
所属：人的特殊物品捜査課
事件発覚日時：20XX/11/01
身辺状況：被害者は特殊物品捜査課に所属する刑事であり、事件当日、上層部に『穂村 令子』の事件に関して問い合わせを行っていた。被害者の言動、及び現在得ている情報から、『極秘事項』に辿り着く可能性は極めて高いと思われる。加えて、被害者のプロファイリングより、上層部に迎合する可能性は低く『極秘事項』が流出する危険性は高いとみられる。
事件当時の状況（※写真2を参照）：被害者は最新のASFR技術である『人格固形化薬』を投与されたことで、人格をゼリー状物質として肛門より排泄している。人格排泄後の被害者には、別途外的処置、及び『再教育』を実施する予定。
保管状況：肉体は特物課捜査官、及び性処理用奴隷として運用。人格ゼリーは廃棄予定。



調 査 書

氏名：目谷 千佳
所属：人的特殊物品捜査課
事件発覚日時：20XX/11/01
身辺状況：被害者は特殊物品捜査課に所属する刑事であり、事件当日、上層部に『穂村 令子』の事件に関して問い合わせを行っていた。被害者の言動、及び現在得ている情報から、『極秘事項』に辿り着く可能性は極めて高いと思われる。加えて、被害者のプロファイリングより、上層部に迎合する可能性は低く『極秘事項』が流出する危険性は高いとみられる。
事件当時の状況（※写真2を参照）：被害者は最新のASFR技術である『人格固形化薬』を投与されたことで、人格をゼリー状物質として肛門より排泄している。人格排泄後の被害者には、別途外的処置、及び『再教育』を実施する予定。
保管状況：肉体は特物課捜査官、及び性処理用奴隷として運用。人格ゼリーは廃棄予定。









ハあるほーる



ほんものそのまま
わたしのおま●こ
いっぱいいっぱい
つかってください







































『ASFR犯罪』

それは、近年になって表れた、新たな犯罪の手口。
人間——それも特に若い女性——を、
モノ、すなわち石像や性玩具へと作り替え、
闇ルートで売り捌く犯罪である。

材料費や加工費がほぼゼロであることや、
好事家の需要により通常の商品よりも高く売れることなどから、
裏組織の資金源として、急激にその被害数を増やしている。

科学技術の発展により現れたこの犯罪は、
その手口が発見当時では非科学的とされていたこともあり、
法整備が遅れに遅れ、その間に起きたASFR犯罪、
及び被害者の総数は、少なくとも六桁に到達したとされている。
また、捜査環境が整備された今、
年間で平均にして数百人の被害者が発見されているが、
その「発見される被害者」ですら、
全体の一割にすら満たないと推測されている。

そんな現代の暗部を捜査する部署である、
人的特殊物品捜査課——通称特物課。
これは、そんな特物課に保管されていた、
ASFR犯罪に関する、捜査記録の一部である。

「……え？私に何か御用ですか？」

——スカウト、ですか？

……！この名刺、あの有名事務所の………！！

ほ、本当に………!? 私が読者モデルに………!!

………分かりました！はい！是非よろしくお願いします！」



（や、やったわ………！これまで活動してた甲斐があったわ！）

「……え？今すぐ撮影ですか？」

い、いえ！はい、是非伺わせていただきます！」

「全くチョロいよなあ？偽造名刺をチラつかせるだけで、すっかり信じてノコノコついてきてくれるんだからよお」
「だからって油断し過ぎだ。この女、相当怪しんでたぞ？」
仕方なく『工場』に行く前に薬液打ち込んだせいで、
道のど真ん中でオナって石化しちまったじゃねえか」



「まあまあいいだろう？そう焦るなよ。」

車を持ってくるよう頼んだし、もうすぐ――」

「う、うわっ!?なんだこれ、石像……!!」

アンタ達、ここで何をして……!!」

「チッ！ほら見たことか！ずらかるぞ！」

（やらあっ♡おいてかにやいでえっ♡♡

いくのがとまらっ♡とまらにやいいいっ♡♡

もどしてええっ♡かりやだもともどしてえええっ♡♡）

「あ、おはよう!」

「おはよう、あかりちゃん!」

——ねえ、会って早速なんだけど、バイトに興味ない?」

「……バイト? 本当いきなりどうしたの?」

「実はさ、昨日の夜先輩からメールがあったね。」

「すごい稼げるバイト教えてもらったんだあ!」

「お友達も一緒に!」ってあったからさ、あかりちゃんもどうかって」

「どれどれ……うわっ! 本当だ……!」

でも怪しくない? こんなに貰えるなんて流石におかしいよ。」

『女子学生限定』っていうのもちょっと……」

「う……ん、そうかなあ? 信頼できる先輩のつてだし、大丈夫だと思うけどなあ……。」

ね、おかしいと思ったらすぐ帰っていいからさ、少しだけ一緒に、ね? お願い!」

「……はあ、わかった、わかったよ。本当にすぐ帰るからね?」

「うん、大丈夫! それじゃあ次の休みはよろしくね!」



「あ、あれ……？わたし、どうなったんだっけ……？
たしか、バイト先で怖い人たちに囲まれて、恥ずかしい写真撮らされて……。」

「や、やだっ……！？身体、全然動かない……！怖いよっ……！だれかたすけてっ……！」

「……！人の声だ……！たすけてっ！ねえ、たすけてくださいっ
ど、どうなってるの……！？なんでこの人たちが、こんなに身体が大きいの……！？」

ほんものその
わたしの
いっぱい
つかって

あるほー

「ああ、こちらの商品ですか。お客様もお目が高い。」

「ご認識の通り、こちらのオナホは『アレ』を原料に使用した一点物でございます。
本日は『同じタイプ』でもう一体入荷しておりますので、そちらもご覧になりますか？」

「はい。では、どうぞこちらへ……。」

「ま、まって！おなほ？原料？一点物？あの人たち、私の方を見ながら、何を言っ……！？
やだよ、何が起きてるの……？？わかんないよ、たすけてよお……。」

「ああ、おはよう。さて、今日も定例会議を
はあ……またあいつ達か。全く懲りない奴らだな。
仕方ない、今日も生徒指導の●●先生にお願いして
確か今日は、●●先生はお休みだったな。
では、私が注意しに行くでしょう。」

何？

いや、そうか。



「旧校舎に入るだけでもいただけないというのに、
その上飲酒と喫煙までされたというのでは、放っておくわけにもいくまい。
正しい生活を送る一般の生徒にも示しが付かないしな。
なに、大丈夫だよ。腐っても我が校の生徒だ。そうそう手荒な真似はしないだろう。
それにいざとなれば、私にも武術の覚えがあるのでな」

「ククク、あんなにイキってた生徒会長様が、こんな間抜けな姿になっちまうなんてなあ？」
「感謝してくれよう？ 専門の『業者』を雇うの、結構大変だったんだからな」

「ああ、感謝してるよ。全く、政治家の息子様々だなあ？」

クク。よお、どんな気分だ会長お？

見下してた不良共に小便ぶっかけてられてんのに、何もできない気分はよお？

……………クハハッ！ そうだったなあ！ もう喋ることすらできねえんだよなあ！ オイ！

「…………ん？ ハハ、なるほどなあ！ こいつはいい趣味だ！

自分の小便自分にぶっかけてやがるぜえ、コイツ！

ホラホラ、もっと頑張っておしっこしないとお、

俺達のくっせえ小便が流れないでちゅよお……………、なんてなあ！」

「ギャハハハハハハハハハハッ！」

「…………た、すけてえ…………♡ もう許してくれえ…………♡」

「あら？ ■さんではありませんか。
ふふ、ごきげんよう。お元気そうで何よりですわぁ♪
あらあら、そんなにビクビク震えなくてもいいじゃないの。
そんなに慌てなくても、今日もたぁ~~~~っぷり可愛がって差し上げますから、
是非是非、ご安心してくださいませ♪」



「は？ もう止めてほしい？」

「貴女、わたくしにそんな態度をとっていいと本気で思ってますのぉ？」

「お父様に頼めば、貴女だけでなくその家族全員にまで、」

「わたくしの『暇潰し』が可愛く思えるような仕打ちを与えることも可能ですのよ？」

「そうそう、分かればよろしいのですわぁ♪」

「それでは今日も放課後、いつもの場所でお待ちしておりますわね♡」



「いやはや、ここまで素晴らしいモノを贈って頂けるとは、感謝の極みです。しかし、私が言うのもなんですが、本当によろしかったのですか？例のプロジェクトのためとはいえ、実の娘を――」

「いえいえ。実の所、コレには随分と手を焼かされてな。そろそろ処遇を考えねばと思っていた所に、丁度舞い込んだ今回のお話。処分と実益を兼ねて、一石二鳥と言った所ですわ。」

最後に親孝行もできて、本人も喜んぶでしょう。ガッハッハッ！」

（ひうううううううッ♡にやにっ♡にやんですのぉおおおッ♡
かりやだっ♡うごかつ♡うごかにやいのにいい♡♡
ちくびとっ♡クリがあっ♡じくじくっ♡ずっとうずいてえう♡
いイッ♡イクッ♡イクのっ♡とまらにやいいいッ♡♡
たっ♡たしゅけっ♡だれかたしゅけてえええ♡♡
おおおッ♡おとおしやまっ♡♡おとおしやまあああ♡♡♡）

「みんなーっ！今日はライブに来てくれてありがとうっ！
みんなと会えて、まほ、すっごく嬉しかったよーっ！
さあ、残り時間もあと少しっ！次が最後の曲だよ！」

「うわっ！気付かなかったけど、またあのストーカーっぽい人來てる……。
マネージャーさんから、警察経由で注意が行ったって聞いたんだけどなあ……」



「つと、ダメダメ！集中しないと、他のお客さんに失礼だよね！」
「ちょっと寂しいけど、次もまた、きつとライブで会えるからっ！
最後まで最高に盛り上がっていいこうね！
それじゃ、今日ラストの曲、いっくよー！」

「ふう……ふう……っ♡ぐふふ、やっど、やっど、まほたんがボクのモノにっ……!!
ぐふ、気付いてたよ? ライブ中、まほたんがボクに熱い視線を投げかけていたのを……!!
やっどボクの気持ちも分かってくれたんだね……!! 嬉しいよ……!!
うっ……!! また射精るっ……!!」

「ぐふ、ふう……っ♡ ああ、まほたんのつるつるおま●こ、何度見ても綺麗だよ……。
膣内に挿入られないのは残念だけど、でもいいんだ……。
その代わりに身体の隅々まで、僕の子種の色と臭いに染め上げてあげるからね……♡」
(キモイキモイキモイっ……!! やだ、誰か助けてえっ……!!)
全身ベタベタで気持ち悪いよお……!! ずっとなんな姿なんて嫌だよお……!!)



「ッ、よし。ベストタイムからプラスコンマ一秒……。練習でこのタイムが出せているなら、本番も心配ないだろう」
「はあ、はあッ……！うッ……スッ！ありがとうございますッ……！それじゃもう一本行くので、また計測おねがいますッ……！」
「おいおい、大丈夫か？もう時間も遅い。そろそろ……」
「いえッ……！自分はまだまだ大丈夫ッス……！」



「そう、か……。まあ、お前がそこまで言うなら仕方ないが……。ただし、それでオーバーワークになっては逆効果だ。次の一本が今日のラスト。それでいいな？」
「うっス……！それじゃあラスト一本、よろしくお願いしますッ！」

「おっ、まだ回収されてないぜ、このダッチワイフ」
「くひひ、ラッキー。それじゃまた使わせて貰うか……」
まったく誰だか知らねえが、ありがたいこったぜ。
こんな新品同然の上物を捨ててくれるなんてよ……って、おいおい。
前に使った奴、ちゃんと片付けてねえじゃねえかよ。
……クソ。三つ全部、ご丁寧に使いやがって。
誰とも分からねえ野郎のザーメンを片付ける趣味はねえぞ、ったく」

「まあまあ、どうせ使ったのは同じ穴の貉だ。
期待するだけ無駄なのは分かるだろ？」

さっさとオナホ引っこ抜いて、あそこの水道で洗って来いよ。
今日は先に使わせてやるから、な？」

「……チッ。わーったよ」

（……や、だあ……♡ もう……♡ つかっちゃだめっすよお……♡）



「やあお嬢さん。一人でお祭りに来たのかい？」

「そうだけど……おじさんだあれ？」

「おじさんはねえ……このお祭りにお店を出してる人たちに、商品を卸している人なんだ」

「おろす？」

「そうだよ。焼きそばとか、りんごあめとか……」

「そういった食べ物とか、その材料とかを、お店の人に売ってあげているんだ」



「へえ……？それで、おじさんはわたしに何のご用なの？」

「ああ、実はね……。おじさん、ちよつとミスをしてしまってねえ。

お店の人に渡すはずだった品物の材料が、まだ用意できていないんだ。それでよかったら、お嬢さんに少しお手伝いをして貰おうと思ってね。もちろん、それなりのお礼はするよ。どうだい？」

「ふーん……？」

「うん、いいよ！おじさんを手伝ってあげる！」

（あっ♡ あっ♡ あっ♡ やだやだやだ あっ♡
からだうごかないのにいっ♡ おしっこするとこがずっときもちいよおっ♡
なんでえっ♡ たしゅけてえっ♡ こんなのにやだよおお♡）

「……うん。やっぱり何度見てもアンタらの技術はスゲえな。」

「二、三時間前までは生きてたんだろ、コレ？」

「ええ。もっと厳密に言えば、今も彼女は生きていますよ。」

「ただ死んでいないだけとも言えますがね」

「はあ、なるほどねえ……」

「まあ、貴方は難しいことは考えなくてよろしいですよ。」

「貴方は私という業者から、『人の形をした鮎』を仕入れただけ。そうでしょう？」

「ああ、分かってるよ。……ただ、こんな目立つ場所で受け渡す必要があるのか？」

「それがクライアントの依頼ですからねえ。」

「わかるでしょう？ 好事家が多いのですよ、我々の依頼人にはね。」

「まあ、大丈夫ですよ。万が一ポリに目を付けられたとしても、」

「貴方は知らぬ存ぜぬを突き通せばよろしい。そこで迷惑はお掛けしませんよ。」

「それに――」

「それに？」

「……いえ。ともかく、後は頼みましたよ」

「おっ—— よお、キモオタ陰キャ。いいところで会ったな。悪イんだけどさ、また金貸してくれよ。お前金持ちだろ、な？」
「ふっ、ふざけるなよ……！ 今月だけでも何万渡してると思ってるんだ……！もうお前に渡す金なんて……！」
「ああ？ なんだその態度？ お前、アタシにそんな口を利ける立場か？ いいんだぜえ？ この前撮った、チンポ丸出しのお前の写真——アレをネットにバラ撒いてやっても……？」



「く、くそっ……！ あれだってお前らが……！
ほ、ほらっ！ さっさとコレ持ってどっか行けよ……！」
「クク、サンキュ。」——「チッ、たった二万かよ。しけてんなあ。
ま、いいや。また頼むぜえ、オタクくん？ ハッハッハッハッ！」
「……ふざけやがって。覚悟しろよ。」
「あ？ なんか言ったか？」
「い、いや……。別になにも……」
「ふん……？ とにかく、次は財布パンパンにしとけよお？ いいな？」

「な、なんだ……!? どこだここ、外か……!? クソツ……! 身体が動かねえっ……!」
おい、このクソ陰キヤ野郎っ! アタシに何しやがったっ!

「クク、いいザマだなあ? あんなに粹がった女が、今じゃ無様な小便小僧って訳だ」
「しょ、小便……っ!? うんっ……!?」

そ、そういえば、さっきからずっとションベンが出てる感覚が……!?
なんだこれ……!? どうなってるいやがんだ……!?」

「くく、どうした? いつもみたく姦しく喚いてみるよ?」

——ハハッ! 石像が喋れる訳無かったなあっ!

謝罪の言葉一つでも聞ければ、元に戻してやってもいいんだがなあ! ハッハッハッ!」
「くくそっ……! んひいっ! ダメだ、全然身体が言うことを聞かねえ……!」

い、いやだっ……! 今までのことは謝るっ! 写真も消すからあっ!
くひいっ♡ だから許してっ♡ ションベン止めてくれえええっ♡♡



「やあ千佳君。久しぶりだね」
「あれ、令子先輩。今日は現場じゃないんですね。
例のマフィア絡みの事件、ようやく落ち着いたんですか？」
「いや、むしろここからが正念場といった所でね。
これから■埠頭の倉庫を調査しに行く所なんだ。
どうも、そこが奴らの重要拠点の一つらしくてね」
「そうなんですか……。気を付けてくださいいね」



「ああ、そうだ。君にこれを渡そうと思ってたんだ」
「何ですか、これ？ USBメモリみたいですけど……」
「なに、私の遺言状みたいなものだ。
手を煩わさせて済まないが、私に何かあった時に中身を見てくれたまえ」
「そんな、縁起でもないです！」
「……………無事に、戻ってきてくれますよね……？」
「はっはっは。まあ、善処するでしょう」

「……………順番に聞きます。貴女の名前は？」

『はい、当機は特殊素体セクサロイド『R・H-01』です』

「……………貴女の所属は？」

『はい、当機は現在、『名称未登録』様を所有者としています。

所有権を移譲する場合は、指紋、網膜、体液などの

生体情報を登録し、設定を変更してください』

「…………『穂村 令子』という名前を知っていますか？」

『検索中……………申し訳ございません。』

当機に『穂村 令子』様の情報は登録されていません』

「…………やはり、ダメですね。」

ご覧の通り、肉体は外も内も完全に改造されてしまっています。

令子さんの『記憶』や『人格』といった情報も、完全に削除されてしまっているようです』

「そんな…………!? どうにかならないんですか…………!?」

「…………生体パーツを解析すれば、人格や記憶のデータを復元できる可能性があります。」

しかし、それを以前の令子さんと同じものと呼べるかどうか…………」

「あ、ああ……………！ 令子さあんっ……………！ う、うう……………っ！」



令子先輩の現場から戻り、失意のままデスクに沈み込む。
そんな最中に、ふと令子先輩から預かっていたものがあったことを思い出した。
……『遺書』と、先輩は言っていた。まるでこの状況を見透かしたように。

USBをPCに差し込み、中身を確認する。
そこに表示されていたのは、一つの動画ファイルだった。

——意を決して、わたしはそれを再生した。

『やあ、千佳君。君がこれを見ているということは、
私は恐らく死んでいるか、あるいは——
私としては前者であって欲しいものだが、まあそんなことはいいんだ。
本題に入ろう。』

——結論から話す。千佳君。今すぐ特物課を離れたまえ。
可能であれば、そもそも職を辞してしまうのが好ましい。

——ASFR事件の犯罪組織と、上層部は繋がっている。
証拠の一つは、君がこの動画を見ているということだ。
物的証拠でなくて済まないがね。
私は今回の倉庫の調査を、君と上層部にしか伝えていない。
そして私の下準備は、自分で言うのも何だが完璧だった。
これで私が失敗したなら……それは、内通者が存在する証左に他ならない。
君が私を信じてくれるなら、すぐに——』

そこまで聞いた私は、部屋をすぐさま飛び出し、資料室へと駆け込んだ。

これまでのASFR犯罪の記録をひっくり返す内に、
わたしは恐ろしいことに気付いてしまった。

倉庫にあるはずの『被害者』が、一部紛失していたのだ。
曲がりなりにも公的機関。物品の管理は特別厳重でなければならないはず。
それが元人間ともなれば、話は一層深刻だ。

犯罪組織と上層部が繋がっている——
先輩の仮説が現実味を帯びる。

上層部は、保護した被害者を組織に返還、あるいは横流ししているのでは？
浅慮なわたしは、真相を確かめるべく、上層部の下へと歩を進める。
それがどれほどの愚行か、気付くことができないままに。

「はあっ、はあっ………！ 課長……っ！ お願いしたいことがっ………！」
「ど、どうしたんだ千佳くん………？ そんな数から棒に………」
「上層部の方に、令子先輩を含むASFR犯罪の件でお聞きしたいことがありますっ………！」
「課長の方から、アポを通していただけないでしょうか………!?」
「………ああ、うん。分かった、とりあえず聞いてみよう」
「本当ですか………！ ありがとうございますっ！」



「……ええ、ええ。はい。それでは………はい。ではそのように………
………よかったな千佳くん。偶然予定が空いていたそうさ。
この後13時に、第八会議室に向かうといい」
「ありがとうございますっ！ それでは失礼しますっ！」

「………まいったなあ。この短期間で二人目の欠員か………」

「まあ座りたまえ。お茶でも飲むといい」
「あ、ありがとうございます……」

目の前で話すのは、老獪な雰囲気漂わせる男性。

普段会うことすら稀な、遥か上の立場の人間を前に、思わず委縮してしまう。
緊張に耐え切れず、徐に呷った薄緑色の液体が、するりと喉を滑り落ちていった。

「……さて、目谷千佳くんだったかな？
ああ、要件は分かってるよ。先程電話で聞いたからね」
「あ、ありがとうございますっ！それでは……！」

私を見る男性の眼がきゅっと細く絞られ、その口元には笑みが浮かぶ。
その表情には覚えがあった。

あれは幼いころ、学校の課外活動で酪農家を訪れたとき。
先生が浮かべていた、これから屠殺される家畜を憐れむ眼だ。

「—————だが、その前にひとつ聞いておこう。
君は、こちら側に付き従う気はないか？」
「—————は？」

男の言葉の真意を測りかねて—————

—————自分が解釈する通りと信じたくなくて、思わず聞き返す。

「事実は君の思っている通りだと、そう言っているんだよ。
その上で真実に蓋をし、我々の下でこれまで通り働かないか、ともね。
もちろん、完全に以前と同じとはいえないだろうが、
相応のポストは用意しよう」

男の言葉を理解した脳髓が、急速にヒートアップする。

「—————ふ、ふざけないでくださいっ！
貴方達のせいで、令子先輩は—————あ？」

—————そしてその直後、まるでブレーカーを落としたかのように、
一瞬で視界が暗転した。

「……まあ、そう答えるとは思っていたがね。
ちょうどいい。『アレ』を君で試すでしょう」

薄れゆく意識の中には、何もかも見透かしたような男の声だけが、
最後のその時まで響いていた。

「あ……なるほど。これが
「ええ、我が組織の最新技術、『人格固形化薬』です。
ご覧の通り、投与された人間の人格が、
ゼリー状の物質として肛門より排泄されます。
排泄後、肉体の知能レベルが赤子程度に落ちてしまいますが、
マニュアルに従い教育を行うことで、二、三時間ほどで、
お客様のお好きなように『刷り込み』を行うことができます」

「さて、実証実験はこれで完了です。

検体を提供していただきありがとうございました。

処置後の検体と人格ゼリーは、お客様のお好きなようにお取り扱いください。」

「ふむ。ところで、このゼリーに使い道はあるのかね？」

「いえ。将来的には考えておりますが、今の所はありません。

一度排泄された人格は肉体に戻すこともできませんので、

現状ソレは完全に、ただのゼリー塊でしかありません」

「分かった。いや、ありがとう。」

「さて、では『教育』を行うとするか。付いてきたまえ」

「う……あ……あ……」

「……さて、今の君の状態を報告してもらおうか」
はい。

わたし、『目谷千佳』は、旧人格を排せした後、
ご主人様の『再教育』によって、最適化された新人格を形成して頂きました。
また同時に外科処置も行つて頂き、乳房、陰核の肥大化など、
ご奉仕に適した肉体へと改造をしていただきました」



「ふむ、よろしい。だが、少々味気ないな。
雌奴隷なら雌奴隷らしく、もっと媚びるように、
物欲しそうに話すことを心がけたまえ」
「はい、かしこまりました」
ご主人様♡」

「……ふむ。いい顔ができるじゃないか」
「ありがとうございますっ♡ご主人様♡」
「さて。それでは君に、これからの処遇を伝えよう。
普段は特物課で勤務し、以前の君と同じような、
怪しい動きをするものがないか、逐一私に報告してくれ。
急を要する場合であれば、君の判断で『処理』を行っても構わん」
「はいっ♡かしこまりました♡」



「そしてそれとは別に、いついかなる場合でも、私が呼んだ際には、
私の下を訪れ奉仕をすること。いいな？」
「はいっ♡雌奴隷として当然のことです♡」
「よろしい。それでは早速」
「いや、その前に、しなければならなかったな。
その汚らしい旧人格の入ったゼリーを、さっさと処分してきたまえ」
「はいっ♡早急に廃棄してまいりますっ♡」

「あれ、千佳さん。もう大丈夫なんですか？
令子さんの件で体調を崩して、
長期休暇に入ったってお聞きしましたけど……」

「……はいっ！ もう大丈夫ですよっ！

あ、そうだっ！ 令子さんの調査資料って、いまどうなってますか？」

「……？ どうって、令子さんが……その、ああなってしまってから、
ずっとそのままの状態ですけど……」

「なるほど、分かりましたっ！

それでは、令子さんの調査は私が引き継ぎますね！」

「……は、はい……。よろしくお願いします……？」

僅かな違和感を感じながらも、同僚は気付けない。

彼女が以前の彼女ではないこと。

そして今まさに、暗部に繋がりえる重要な資料が、
目の前で隠滅されようとしていることを。

深淵を覗いた勇気ある者たちを呑み込みながら、

『組織』は着実に、水面下で犠牲者を増やしていく。

無辜の市民たちは、その兆候にすら気付けないままに、
いつかのある日に、その体をヒトではないものへと変えられていく。

「————あっ！ ごめんなさいっ！

ちょっと呼び出しを受けたので行ってきますね！」

「呼び出しですか……？ りょ、了解です！」

いずれ貴方の知る人————あるいは貴方自身が、
調査資料の一ページに載る日が訪れるかもしれない。

「————お待たせしました、ご主人様♥」